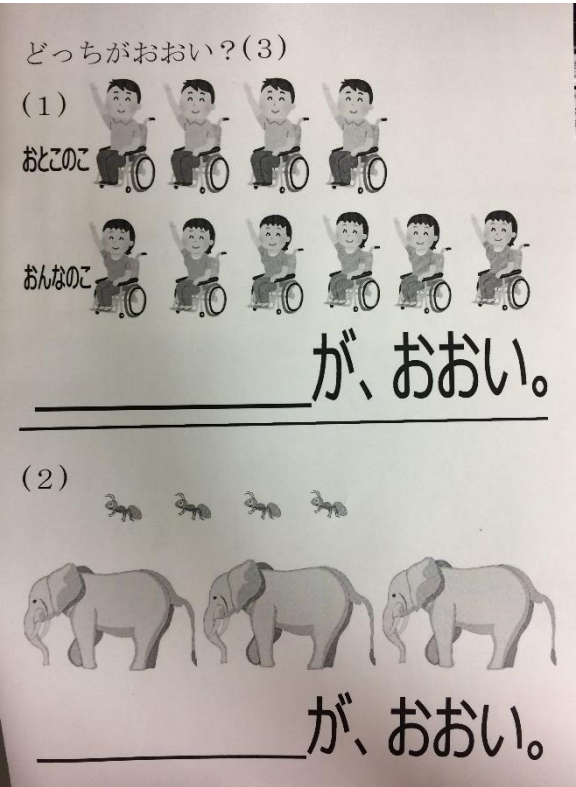


- 1 対象となる幼児児童生徒  
小学部児童（肢体不自由、知的障害、筋ジストロフィー）
- 2 教材を使用する活動  
算数
- 3 ねらい  
ブロックや磁石等の実物を使用した学習の後に、自分自身で問題を解くことによって、学習の定着をはかる。

教材の使い方	配慮点
 <p>どっちがおおい?(3)</p> <p>(1) おとこのこ おんなのこ が、おおい。</p> <p>(2) が、おおい。</p> <p>・わからない場合は、実際にブロックを上を並べさせてみる。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・振り返りで使用するので、なるべく自分の力で問題が解けるようにするために、見守りでの支援を行う。</li><li>・ブロックが紙の上ですべる場合は、ホワイトボードの上に問題を貼り付け、児童自身で操作を行うことができるようにする。</li></ul> <p>授業を進めていくにあたり、苦手だと感じる場所は、プリントの内容をかえ、何回もチャレンジできるようにする。</p>